

ごあいさつ

昭和22年に岩見沢市立豊中学校上幌向分教室、翌23年に岩見沢市立豊中学校上幌分校として学びがスタートしました。そして昭和28年、岩見沢市立上幌向中学校として開校し、令和5年で開校76年目を迎えます。

生徒数は昭和39年の235名がピークで、その後は減少と増加を繰り返し100名以上で推移してきました。しかし、平成20年度以降は100名を割り込み、各学年1クラスとなっています。また、令和になってからは、1学級20名前後の生徒数で生活しています。少人数だからこそ、毎日全職員が生徒一人一人に寄り添う教育を実践するなど、小規模校としての特徴を最大限生かした教育活動を展開しています。また、小規模の教育に魅力を感じ、校区外から進学してくる生徒も毎年数名おります。そのような生徒も温かく受け入れることができる環境が備わっているのが本校の特徴でもあります。

「教育は、一人一人の可能性を広げ、未来を創造する営みである」をモットーとし、子どもたちが自分の将来に向けて夢や希望を描き続け、失敗に挫けず、困難に怯むことなく立ち向かい、自分らしさを発揮して自己実現を図るとともに、他者と協働しながら社会に貢献する資質や能力を身につけるように働きかけていきます。人を育てることは、一人一人の可能性を広げ、未来を創造する営みであり、人を幸せにするものであると考えます。

また、学校経営の最重要課題は、「すべての子どもの学力保障～学は光、無学は闇～」です。このことから、本校のめざす学校像を、『「子どもが輝く学校」～信頼と期待に応える開かれた学校～』としました。また、めざす生徒像は、良好な生活習慣を基盤とした比較的高い学力を持つ反面、自尊感情や規範意識に課題が見られることや小学校での人間関係がほとんど変わることなく、同じ顔ぶれであるため、固定化された人間関係を打ち破ることを期待し、『「志高く生きる生徒」～新しいことに粘り強く挑戦する生徒～』としました。さらに、めざす教師像では、「めざす学校像」「めざす生徒像」を踏まえ、その目標の達成に向けて、「子どもを大切にする教師」であり、子どもの成長を喜び合う教師としました。

昨年度から、上幌向中学校区（第二小学校と上幌向中学校）でコミュニティ・エリア構想がスタートしています。『「よい地域」には、「よい学校」があり、「よい学校」をつくることで「よい地域」が形成される。～未来のトビラを拓く、教育のまち岩見沢～』のスローガンのもと「地域とともに歩む学校づくり」を目指し、より一層地域とのつながりを大切にする教育を展開していきます。

岩見沢市立上幌向中学校長 高田恭介